

会 議 議 事 録

1 会議名	令和2年度 第2回 長岡市障害者施策推進協議会
2 開催日時	令和2年10月27日（火曜日） 午後1時15分から午後2時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡西棟1階 市民交流ホールA
4 出席者名	<p>(委員) 五十嵐委員 池野委員 井上委員 小林委員 田中(晋)委員 田中(春)委員 土田委員 長谷川委員 林委員 藤田委員 堀委員 堀口委員 本田委員 米山委員</p> <p>(事務局) 福祉保健部長 福祉総務課長ほか関係職員 福祉課長ほか関係職員 子ども・子育て課長ほか関係職員 保育課課長 学校教育課長 長岡市社会福祉協議会事務局長</p>
5 欠席者名	(委員) 棚橋委員 沼田委員 野口委員 山口委員 横田委員
6 議題	<p>(1) 第6期障害者基本企画・障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の総論(案)について</p> <p>(2) 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の数値目標(案)について</p> <p>(3) その他</p>
7 審議の内容	
発言者	議 事 内 容

福祉総務課長補佐	○配付資料の確認等
委員長	○委員長あいさつ 先々月に第1回会議を開き、今回は2回目の長岡市障害者施策推進協議会である。身体障害者福祉法ができて70年などの節目の年に、今回の第6期の長岡市の障害福祉の計画を委員の皆さんとともに作り上げていく。 子どもから、大人まで、障害福祉にとっては、非常にいろいろな生活の場面があり、また、制度などにいろいろな課題が見られる場面があるが、一番根幹となるのは、実際に暮らしている長岡における障害福祉に関する大きな政策であり、そういう意味で第6期計画を皆さんとともに作り上げていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。
委員長	○会議の傍聴・公開についての確認 ※傍聴者なし ○議題 (1) 第6期障害者基本計画・障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の総論(案)について
福祉総務課長	○資料No.1に沿って説明
委員長	事務局から説明のあった総論案に関して、ご質問やご意見があればお願ひしたい。
委員	現状の把握ということでデータについて質問したいのだが、人口が減少している中で、若年者の方の手帳の取得数が増えているということについて、見解があればお聞ひしたい。
福祉課長	若年者の中でも、特に20歳前後の取得率が上がっていることについては、一つの要因として、障害者雇用枠での就労というか、仕事をするにあたり手帳を取得される方が一定数いらっしゃるのかなというふうには考えている。
委員	制度の変更によって、手帳を取得したほうが得だと思われる機会

福祉課長	<p>が増えたから取得しているということになるのか。</p> <p>就労もそうですし、そういった手帳を使って利用できるサービスがいろいろあるので、そういったことから若年のうちから手帳をお取りになるのかなというふうには考えている。</p>
委員	<p>私の考えでは、以前、多少知的に問題があったりとか精神的に不安定であった方が、見逃されていたケースが多かったと思う。それが医療や福祉の発達で、そういった必要とされる方に支援の手が差し伸べられるようになったりとか、診断の技術が上がっているから、手帳を取得する方が増えてきたのかなというふうに思ったが、そういった考えでもよいか。</p>
福祉課長	<p>委員のおっしゃるとおり、やはり手帳を使うことで色々なサービスが利用できるとか、そういったことに対する周知や、当事者の方やご家族の方への周知が進んできた結果も十分反映されているのかなというふうには考えている。</p>
委員	<p>それともう一点。今度は逆に、高齢者の方の数が増えてきているにも関わらず、身体障害者の手帳の率が下がっているということについて原因は何かあるか。普通、歳を取ってくると身体障害が治るということはあまりないと思う。そうすると、手帳を取得するメリットがないというか、そういったことが減ってきてるのかなと思うがどうか。</p>
福祉課長	<p>障害者の方の高齢化という問題もあると思う。また、介護保険サービスを活用するという場合には手帳を持っていなくても利用できるサービスが充実してきているという面もあるのではないかと いうふうに考えている。</p>
委員	<p>身体障害の手帳というよりは、介護サービスを利用する方が増えてきたから手帳を取得する高齢者の方が減ってきているということになるのか。</p>
福祉課長	<p>そのあたりの詳しい分析はまだ十分にできていない部分もあるが、介護サービスとの兼ね合いという部分も要因の一つではないか</p>

委員	<p>なというふうには考えている。</p> <p>では、必要なサービスが受けられなくなったわけではなく、他に代替するサービスが受けられるようになったから、あえて身体障害者手帳を高齢者の方が取る必要が減ってきたということか。</p>
福祉課長	<p>65歳を契機として介護サービスのお知らせも行う中で、介護サービスまたは福祉サービスを時々によって、介護サービスが65歳以上は優先にはなるが、ご利用いただいている状況があるので、そういったことも反映しているのではないかなと考えている。</p>
委員長	<p>他に皆さんご意見などあればお願いしたい。</p>
委員	<p>先回のこの委員会で、障害者の文化活動に関する項目をご提案したが、盛り込んでいただき感謝している。今後大事な項目だと思うし、例えば目が見えない私も含めてだが、演劇を見に行くとか、絵画を見に足を運ぶというような機会が増えてきたら嬉しいなというふうに思う。この基本計画がそういった方の後押しになってくれればありがたいと思う。</p> <p>少し細かいところで恐縮だが、スポーツのところオリンピックに関する記述で「2020 オリンピック」とあるが、来年開催であってもこういう書き方でいいのか確認したい。</p>
福祉課長	<p>オリンピックについては、2021年開催になっても、名称としては東京2020というふうに言っているので、このように記載している。</p>
委員長	<p>そのほか遠慮なくどうぞ。</p>
委員	<p>資料の7ページのところで、障害者基幹相談支援センターの相談の受付状況というのでそれぞれの区分が載っており、前回会議での相談受付状況と合計は同じだが、前は行政機関として337というのがあって、今回、県・市町村、保健所が368というふうになっている点と、あと、前回少なかった警察や本人家族の数が大幅に増加している点について、何か取り扱いで変更点があったなど、その辺をお聞きしたい。</p>

福祉課長	<p>相談のあった期間の区分けについては、相談内容について、より細かく見直す中で、区分けを少し変えさせていただいてる。警察や本人・家族からの相談が格段に増えているという部分については、障害者基幹相談支援センターが平成28年に開設し、平成31年度からは、委託相談支援事業所ということで、なんでも相談という言い方になるかと思うが、障害者の方からの相談を受ける委託相談支援事業所を地区担当制にした。そういった相談窓口がわかりやすくなったというのが、本人・家族からの相談が格段に増えたことの要因の一つかなと思う。あと、警察からについては、障害者基幹相談支援センターが障害者虐待の通報機関としても運営されているものになるので、警察からは虐待が疑われるようなケースなどについても、非常に連携が取れて、基幹センターに連絡が来るようになったということも増加したことの要因だと考えている。</p>
委員長	<p>その他ご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>質問ではないが、少し気になってることをお話させていただきたい。15ページ辺りを見ながら、全体的に申し分なく素晴らしい方向性だなというふうには思うが、福祉という言葉に対して若干の懸念があり、そのことについて話したいと思う。</p> <p>福祉教育というか、小さいときから福祉や障害について理解していただくことはものすごく大事なことで、すでにどんどん進んでおり、今の子どもたちは10年前に比べたら随分違ってきているなというふうには思う。しかし、いろんな読本などを見ると、福祉というのが一番見えやすいというか、車椅子の方とか、手話とか色々な体験もなされているが、そういうところに狭まっていると言うか、矮小化されてしまっていていやしないかという懸念がある。福祉は身体のほうからスタートし、色々な活動をなさっているので、非常に皆さんがよくわかって、福祉＝身体障害者みたいなイメージが強くあり、それについてはとてもよくなされていると思うが、見えない障害についての理解というのが非常に難しく、それに対して、小さい時からというのは無理かもしれないが、やはり障害ということを矮小化しないで捉えていただきたいし、そこにはどちらかという人権意識みたいなものを根底に置いて扱っていただかないといけないのではないかと思う。人権というと、障害があっても対等の同じ人間として横の繋がりだが、福祉という言葉の中には、ややもする</p>

<p>委員長</p>	<p>と、不自由で気の毒な人という上から目線が入ってしまったりすることがないように、やはり同じ並びで障害者というものを捉える考え方というのを入れていただきたいというふうに思っている。</p> <p>人権をきちんと捉えた上で福祉全体がある、という貴重なご意見であった。他にご意見があればどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>以前から少し不思議に思ってることがあり、そのことをお話ししたい。一つ目は、「障害者」というのは、その名前（呼び方）でいいのかなと。「障害者」があるから「健常者」があるので。支援が必要で、支援ができればもっとよい生活ができる人とか、そういった名前に変えることができないのかなと思う。「健常者」「障害者」という名前が非常に上から目線のような感じがしてものすごく違和感がある。</p> <p>あともう一つ、現在、工場にお手伝いに行っているのだが、そこにも障害のある方がおいでになる。お母さん方はその子に優しく対応してくれるが、そのお母さん方に、あなたが外に出て、こういうふうなお子様がいたらどうしますかと聞くと、「いや、とても声はかけられません、勇気が出ません」と。いやそうではないでしょう、特別なことではないのですよと。困ってることがあったら、みんなで声を掛け合うのが普通でしょうと。けれども、やはり少し身構えてしまうという実態がある。だから、そのような身構えをなくするような広報活動ができればありがたいのかなと思う。</p> <p>それから先ほどの障害者の名前の関係だが、実際に身体や精神的に障害をお持ちの方が、障害者と言われても別に違和感がないということになれば、私の考えは自身の考えということで収められるが、障害者の方自身が障害者ではなく違う名前がいいという方が多ければ、長岡市だけでも変えることはできないのかなと思う。大変低い目線で申し訳ないが、そのように感じたのでお話をさせていただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>今のご意見があったので、あえて私は障害者の1人として、「障害」という言葉に対する私の考え方を申し述べさせていただきたい。障害者というのは、ご存知のように英語では「challenge」に「ed」が付いて「challenged」というふうに呼ばれているようで、必ずしもハンディがあるというだけではなく、そのハンディを乗り</p>

	<p>越えて、新しい社会への参加、日常生活を克服するといった意味の challenged というような意味で使われていると思う。したがって、外国ではそういった良い言葉が使われている。日本ではどうなんだということで、障害当事者の中でどういう議論があるかという、正直言って、障害という言葉に対する抵抗はそう大きくないように思う。</p> <p>ただ最近、新潟市もだが、障害の害の字をひらがな表記にするところが散見されるようになってきている。「害」の字をあえてひらがな表記にするということには、逆に抵抗がある。なぜかという、この発想はある宗教団体あたりから出てきたらしく、障害者というのは、社会にとって「害」というイメージがあるから、「がい」とひらがな表記にするということになったらしい。世間は障害者を「害」というイメージで見ているというイメージがあることに繋がるため、あえて障害の「害」の字をひらがな表記にするというのはおかしい。障害というのは、一つの乗り越えるべきハードルである。社会では、決して障害者を「害」と見ていないはず。「がい」をあえてひらがなにすることは、障害者に対する「害」のイメージを払拭しようということだとは思いますが、私は障害者の一人として、障害は乗り越えるべきハードルだと考えているので、「障害」という言葉に対する抵抗というのは無い。また、「障害者」という言葉が悪いという議論というのは、今のところない。ご意見があればまたお聞きしたい。</p>
委員長	<p>委員の話にあった、漢字、ひらがな表記については、ちょうど15、6年前、色々なところで動きがあったが、委員の言われるように漢字からひらがなにしたら変わるのではなく、先程の他の委員の話にもあったが、福祉に対するものの見方をきちんと持つことが必要である。先程まさに委員から、福祉という言葉の本当の意味をもっと知るべきでないかというお話があったが、皆さんのご意見を聞いてまさにそうだと感じた。</p>
委員	<p>その他あればどうぞ。</p> <p>計画とは少し違う話だが、障害者手帳がカードのようなものになる噂を聞いたが、そのあたりのことについて教えてほしい。</p>
福祉課長	<p>障害者手帳のカード化というお話は、以前から出ている。全国的</p>

	<p>には、山口県で実際に療育手帳をカード形式に変更した、新潟県では今現在、カード化の変更予定が具体的に進んでいる状況ではない。カードにすると、耐久性に優れていたり、小さくて財布に入る、持ち運びがしやすいというメリットがあるが、カード化によって、今まで手帳（紙面）に書き込んでいた内容をどのように扱うか課題もあるという中で、各都道府県において、検討が進められているのかなと思う。新潟県については、今のところ具体的な動きはない。</p>
委員長	<p>他にご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>先ほど、総論ということでお話があったが、気が付いたところを何点か話させていただきたい。</p> <p>私自身、知的障害の子どもがいるのだが、先程言われた手帳について、まずはお話したい。発達が遅れていると言われている人たちが生活してきて、途中で手帳を必要とするということもあり得る。実際にそういう方を知っているが、その時はとてもハードルが高かった。学校の資料が残っていないとか、病院に行っていなかったとかがあり、では制度そのものをその人たちが知っていたかというところを決してそうでもなく、車の運転もできないという中で、色々な手を尽くして生活ができるように、少しお手伝いをさせていただいた。周知という点で、必要な人に必要な情報がいつているのかということについては、私としては首をかしげるところである。</p> <p>また、就労も当然絡んでくるが、障害者雇用で仕事をしてきた方が、今回コロナの関係で急にクビになった。「明日から来なくていいよ」みたいな形で、行く場所がなくなり、生活の場はあったが、お小遣いなり、幾らかもらっていたお給料が全く入らない、その間はどうか。コロナで作業所にも行けない。自宅で待機している状況が続いたと、そういう方もいらっしゃる。幸い、何か月か経って作業所に通えるようになったので、その方はそこでまた元気にしていると思う。</p> <p>あとは、医療や健康の面について、知的障害の方たちというのは、人間ドックなど自分の健康についてきちんと調べるとか調べてもらうとかという機会が少ないように感じている。その中で、若くして20代後半や30代前半で癌が見つかり、その時は手遅れ状態で積極的な治療せずそのまま亡くなったという方を何人か知っている。そう考えたときに、私の子どもに癌検診を何とかできないかなという</p>

	<p>ことをいつも思っている。そして、自閉の傾向があったり、知的も障害が重かったりすると、場所が変わることなどにより、なかなかそこになじまない、検査も難しいというようなこともあり、そういう状況の子どもたちが奇異の目で見られることもある。検査ができなかったということもある。親や本人たちの努力だけではどうしようもないこともあるので、そこら辺の啓発をいろいろやってもらえたらありがたい。</p> <p>○議題</p> <p>(2) 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の数値目標(案)について</p>
<p>委員長</p>	<p>今日は皆さんから素晴らしいご意見をいただき、大変ありがたく感じている。</p> <p>次に議題2の第6期長岡市障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の数値的な目標を事務局から説明をお願いしたい。</p>
<p>福祉課長、 子ども・子育て課長</p>	<p>} ○資料No.2に沿って説明</p>
<p>委員長</p>	<p>今の数値等について皆様の質問などあればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>一般就労への移行のお話があったが、数値目標はこれまでの数字をベースにして算出されているので異論はないが、やはり、一般就労を増やしていくためには、受け入れ側の考え方、意識の問題が非常に大きいのではないかなと思っている。支援体制はもちろんだが、雇用する側の意識の問題というのが、前の会議でも申し上げたことがあるが、非常にそこがどう変わるかでだいぶ変わってくるのではないかと考えている。</p> <p>先程の障害者の理解の話、15ページのところの(1)に書かれていると思うが、子どもから大人までの支援という形で、本当に全世代で関係のあることでありながら、実際、一般市民の意識はどうかという、手帳の数でいうと約1万3千人が持っているという話だが、仮に家族や周りの人×4とか5だとしても、長岡市民の残り20万人くらいは自分の身近なことではないので、意識がそんなにはないという状態が普通というか、現実だと思う。それが差別か</p>

	<p>どうかというのは、また議論があるところだと思うが、我々が考えている以上に、もっともっとやっていることを啓発する、あるいはその辺の理解を深めるためにどういう手段がいいのかということを考える必要がある。元々そういうベースがある中でこういうことをやっていくところを、もう少し計画の中に盛り込んでいく必要があるのではないかなと思う。「共生社会」とか「ともに生きる」は、言葉としてはいいが、それをどうやって、それほど関心がない層に訴えていけるか。そういうことが積み重なって、就労であったり、国の政策の中で障害者と健常者との垣根がなくなると思って、むしろ、ここにいない一般の20万人の人にどういうふうに訴えるのかというのが重要だと思う。</p>
委員長	<p>その他、ご意見などあればどうぞ。</p>
委員	<p>私は今、障害者相談員をやっているが、確かに地域割りのケアセンターができて、相談件数も増えている。地域割りといってもその地域にあるわけではなくて、距離的には使いやすいとは言い難い。また、伝えることが難しい障害がある方や、お電話等ができない方には、ハードルが高いというふうに感じている。今私のところに相談に来られる方がいるが、やはりもう少し身近で相談ができるというふうなことが必要だと思う。例えば、差別ということをもう少し気軽にというと語弊があるかもしれないが、相談しやすい相談センターがあるとうれしいなと思うので、またぜひお願いしたい。</p>
委員長	<p>相談員という制度も県の制度があり、色々な皆さんが集まってやっていただいているが、先ほどの事務局の説明資料の中に相談件数は含まれているのか。</p>
福祉課長	<p>障害者相談員ということで、委員からもご協力いただいているものについては、国の法律に基づいて市でお願いをしている制度である。今お話があったように、市の委託の相談支援事業所だけでなく、障害者相談員とか、家族会での相談とかさまざまな取り組みの中で相談しやすい体制を作っていきたいというふうには考えている。</p>
委員長	<p>相談するところがいっぱいあった方が、そしてより専門のほうに</p>

委員	<p>結びついていくというような形になるかと思う。</p> <p>あと、数値目標のところでは林委員などにか現場で何かあればお願いしたい。</p> <p>私は入所施設の職員だが、先程お話を聞いたコロナの影響で、障害者雇用枠で働いている方が雇止めになったというお話があったが、実際のところ長岡市では、そういったコロナの影響で障害者雇用が雇止めになったとか、そういった例などの情報は入ってきているのか教えてほしい。</p>
福祉課長	<p>雇止めというお話は、障害者自立支援協議会で就労部会などもあり、そちらで現場の方もご参加いただく中でお話しているところではある。具体的に雇止めというケースは把握していないが、就労するにあたって企業実習というのに障害のある方が出て行くが、そちらがやはりコロナの関係で実習に出られないということで、実習、さらにその先の就労までなかなか動けないという声はよく聞いている。</p>
委員長	<p>予定の時間が近づいてきたが、他に何かあればどうぞ。</p>
副委員長	<p>資料2のIIの地域生活支援拠点の整備について教えてほしい。この中で「多機能拠点型施設」と書いてあるが、多機能とはどのようなことか教えてほしい。</p>
福祉課長	<p>地域生活支援拠点については、機能として5つの機能を挙げられている。緊急時に必要なサービスをコーディネートする相談機能、短期入所を活用した緊急時の受け入れ対応、福祉サービス企業や一人暮らしのための体験の機会・場の提供、4つ目として、専門的な対応の為に体制の確保や人材育成を図る専門的人材の確保、養成の機能、そして5つ目に、地域の社会資源を活用した地域で障害者を支える体制づくりをするという形で、そちらの方を一つ施設の拠点の中で多機能を多機能型ということで運営をしているという形で、長岡の場合は長岡ホームというところがその拠点として存在している状況である。</p>
副委員長	<p>それに付随して、障害には3種別があるが、障害種別に関係なく</p>

	<p>購入などをして、障害を持つ方を理解するとか、地域に暮らしている子どもさんや高齢者を入れて地域にある社会資源を活用して共に生きるというのを身をもって理解してもらえればいいと思う。はじめのところに「機能の充実」とあったので意見を付け加えさせていただいた。</p>
委員長	<p>はい、他にご意見があればどうぞ。</p>
委員	<p>障害者手帳のカード化について、コロナや施策協議会は関係ないと思うが、先ほどご意見があった。以前からカード化することにより、携帯性や対応性等々が向上するというところで、身体障害者団体連合会を通じてカード化について要望を出しているところである。客観的なご回答もあったが、より積極的に県に働きかけて頂きたいという思いで発言させていただいた。昨今、マイナンバーカードというのも国が強く進めており、そことリンクすることもありうるのかなと考えているが、カード化に対して私どもは要望を出しているので、十分ご検討いただきながら、働きかけをお願いしたいと思う。</p>
委員長	<p>委員どうぞ。</p>
委員	<p>公共交通対策の推進ということであるが、今郊外のバス路線が減っており、移動支援や同行援護のサービス利用するにあたり、とても使い勝手がよくない。ヘルパーさんの車には乗れないので、バスを利用したいが時間が合わないということが起きてきている。一人でなかなか出かけられない子どもたちが、お出かけさせていただくのはとてもありがたいので、そういう機会が減らないように何か方策がとれたらいいなと考えている。</p>
委員長	<p>今のご意見は要望ととらえてよいか。</p>
委員	<p>(要望として承諾)</p>
委員長	<p>では、議題3のその他に移りたいと思うが、事務局から何かあればお願いしたい。</p> <p>本日は非常に中身の濃いというか、福祉あるいはこのような啓発、教育などについて、一つの芯を皆さんと話すことができたと思</p>

<p>福祉保健部長</p> <p>福祉総務課長補佐</p>	<p>う。また、数値目標、総論等々については、皆さんのご意見を反映しながら事務局の方で進めていってほしい。意見等が無いようなので、進行を事務局の方にお返りする。</p> <p>○福祉保健部長あいさつ</p> <p>本日はお忙しい中、各委員の皆様にお集まりいただき、また、長時間にわたる活発なご議論をいただき誠に感謝申し上げます。この会議は今年度あと2回、12月と3月に予定しているが、今回総論のたたき台をお示しし、様々なご意見を頂戴した。市民の皆さんの困り事や悩み事、相談事の原因や理由が1つではなく、複数の背景や原因が重なってきていると感じることがこれまで以上に多くなってきている。そういう意味で「包括的な」というのは一つのポイントになると思うが、いわゆる丸ごと、切れ目なく対応・支援するというのが、重要なポイントになってくると思う。個々のサービスや整備があるが、それぞれに対象者が決まっていたり、あるいは要件や条件があるが、それがもっと横に繋がっていかないといけないなと思っている。本日は色々なご意見をいただき、福祉の心の浸透を図っていくこと、その周知・啓発の必要性を感じている。今後は、本日いただいたご意見をさらに精査し、次回の会議ではより具体的な各論を含めた、計画全体の素案をお示しする予定となっている。年末のお忙しい時期にお声がけすることになろうかと思うが、ご協力をいただきたいと思いますので何卒よろしくお願ひしたい。</p> <p>○閉会（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の本協議会は、12月中の開催を予定している。委員の皆様には、開催日時が決まり次第速やかにご案内させていただきます。 ・本日の会議録については、後日皆様にお送りする。なお、長岡市のホームページにも会議録を掲載するので、ご承知おきいただきたい。
<p>8 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>